

日付:2016年6月5日／聖書:サムエル記上16:1～13

説教:「主は心を見る」

預言者サムエルは、幼い頃祭司エリのもとに育つ。そこで祈りを教わる。それは、主の言葉が語られる時、《主よ、お話ください。しもべは聞いております》という祈りだった。祈りには二つある。一つは、「しもべは話します。主よ、お聞きください」という祈り。もう一つは、エリが教えた「しもべは聞いております。主よ、お話ください」である。これは、どちらが正しく、どちらかが間違いということではない。私たちは、さまざまな願いや求める心をもって、教会に来るもの。慰め、癒し、救いを求めて……。さまざまな求める心をもって教会へ来る。しかし、礼拝に集う時、そのまま何かを要求する姿勢に留まり続けることは出来ない。礼拝においては、自然と御言葉を聞くこと、主の晩餐を受けること、そういう恵みに与かって行く。ロマ書に、《実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです》(10:17)とある。聞くことは、慰め、癒し、救いに繋がるのである。

サムエルは、イスラエルの王サウルに代わる新しい王を探すことになった。神は、ベツレヘムのエッサイの子の中から選べと言う。サムエルは、容姿や背の高さ、人の力強さに目を向けるのだが、しかし神は、《人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る》という。結局、人の思いに反し、七人の息子たちではなく、対象外であった末っ子のダビデが選ばれた。こんな少年がイスラエルの王に勤まるだろうかと思うのは当然である。では、ここから聞こえてくるメッセージは何か？

この後、このベツレヘムにイエス・キリストがこの所でお生まれになる。私たちのイエス・キリストがこの小さな村ベツレヘムでお生まれになるわけだが、それは人の思いに反し、家畜小屋で、飼料おけに寝かされているイエス・キリストが誕生する。神は、人の目には対象外であった羊飼いの少年ダビデをイスラエルの王にした。神は、この小さな村ベツレヘムにおいて、小さな頼りない形において、イエス・キリストを現して行く。

この世で生きる時、私たちはどうしても容姿や背の高さ、人の力強さに目を向けがちだが、しかし主なる神は、小さくされている所に目を向けておられる。

私たちはどうか？主なる神は、私たちがどこに目を向けているのか、私たちの心を見る。私たちは、今一度、主のみ声を聞く祈りを覚えたい。(神谷)